

# 新型コロナウイルス流行による学校教育への影響に関する調査報告書

—長崎県学校教職員へのアンケート調査分析[ダイジェスト版]—

## 第1章 調査とデータの全体像

報告書:1ページ～

—「新型コロナウイルス流行による学校教育への影響に関する調査」概要—

### 1-1. 調査の趣旨

新型コロナウイルスの感染拡大は、社会の構造自体をも変化させ、学校教育にも大きな影響を及ぼした。このような過去に例を見ない状況下で、長崎大学はいくつかのワーキンググループを作り、長崎県の皆様方に対してどのような分野でどのような貢献ができるかについて、日々議論を続けている。

その中で、今後の長崎の学校教育を考えるためには、「昨年度末から生じた学校の臨時休業と、7月以降の感染再拡大は、学校教育にいかなる影響を与えたのか」について、まず把握する必要があるという認識に至り、長崎県下公立小・中学校の先生方を対象にアンケート調査を実施した。以下が当該調査結果の概要である。

### 1-2. 調査対象と実施期間・実施方法

調査対象:長崎県内の教職員

実施期間:令和2年8月17日(月)～9月7日(月)

実施方法:Google フォームを用いたアンケート

### 1-3. アンケートの内容構成

#### A. フェイスシート

勤務校の所在地/校種/職位/教職経験年数/勤務校の学級数/担当学年/学級の児童生徒数 など

#### B. 臨時休業中における学びの保障に向けた学校の対応【複数回答】

#### C. 臨時休業中～臨時休業明け直後の教職員・子ども・保護者の状況【複数回答】

C-1. 教職員が抱えていた不安

C-2. 子どもたちの状況 (分析:第2章)

C-3. 保護者の状況 (分析:第3章)

#### D. これからの学校教育への不安【複数回答】 (分析:第4章)

#### G. コロナ禍の学校教育に必要な支援・配慮【複数回答】 (分析:第5章)

#### H. 自由記述欄 (分析:第6章)

### 1-4. データの概要

回答地域:長崎県内 21 市町

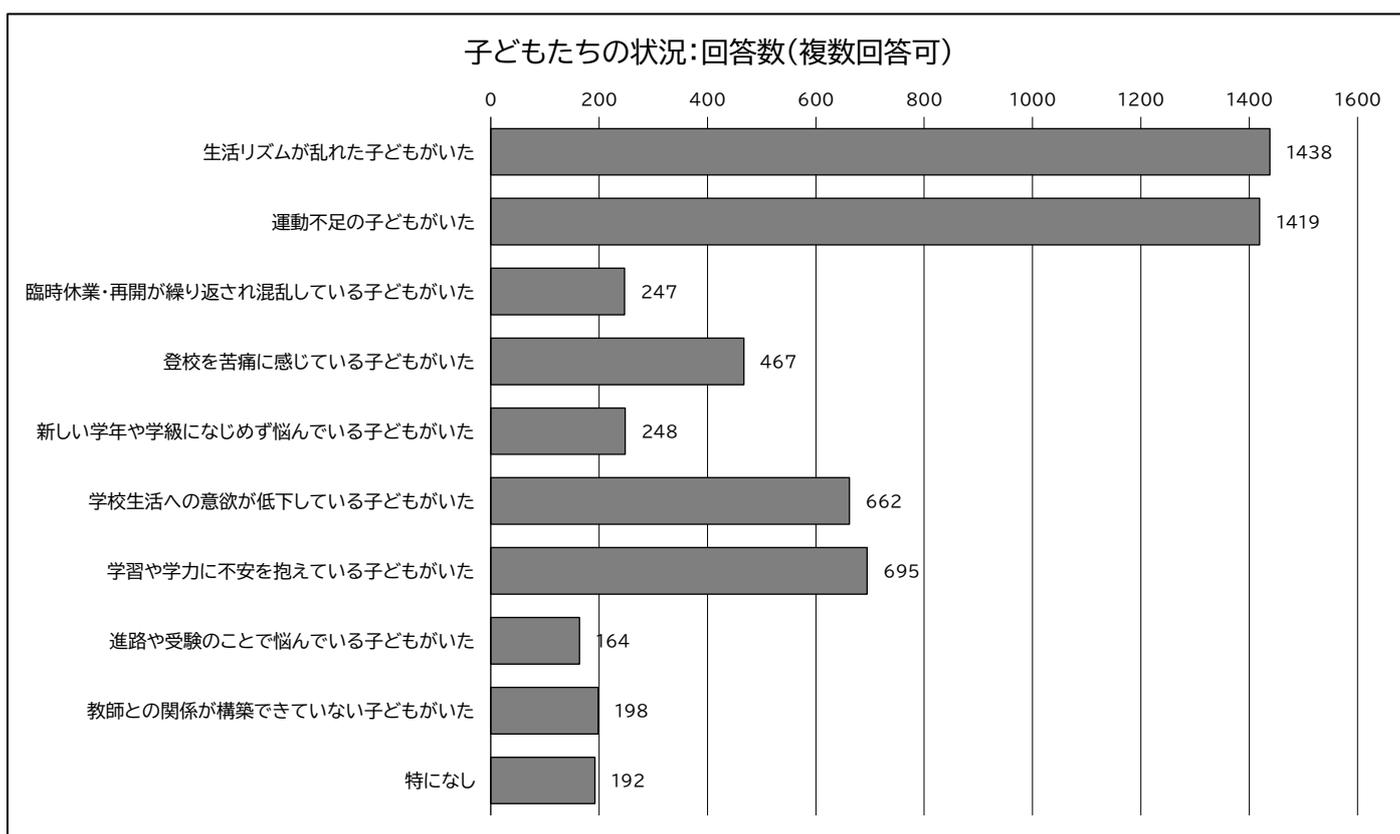
有効回答数:2,130 件

## －臨時休業中から臨時休業明け直後の子どもたちの状況についての教職員の認識－

設問：臨時休業期間中から臨時休業明け直後の子どもたちの状況について、当てはまるものを選択してください(複数回答可)。

## ◎全体集計結果：県全体(n=2,130)

	項目	回答数(複数回答可)	全体に占める割合	順位
1	生活リズムが乱れた子どもがいた	1438	67.5%	1
2	運動不足の子どもがいた	1419	66.6%	2
3	臨時休業・再開が繰り返され混乱している子どもがいた	247	11.6%	7
4	登校を苦痛に感じている子どもがいた	467	21.9%	5
5	新しい学年や学級になじめず悩んでいる子どもがいた	248	11.6%	6
6	学校生活への意欲が低下している子どもがいた	662	31.1%	4
7	学習や学力に不安を抱えている子どもがいた	695	32.6%	3
8	進路や受験のことで悩んでいる子どもがいた	164	7.7%	10
9	教師との関係が構築できていない子どもがいた	198	9.3%	8
10	特になし	192	9.0%	9



## 結果と示唆

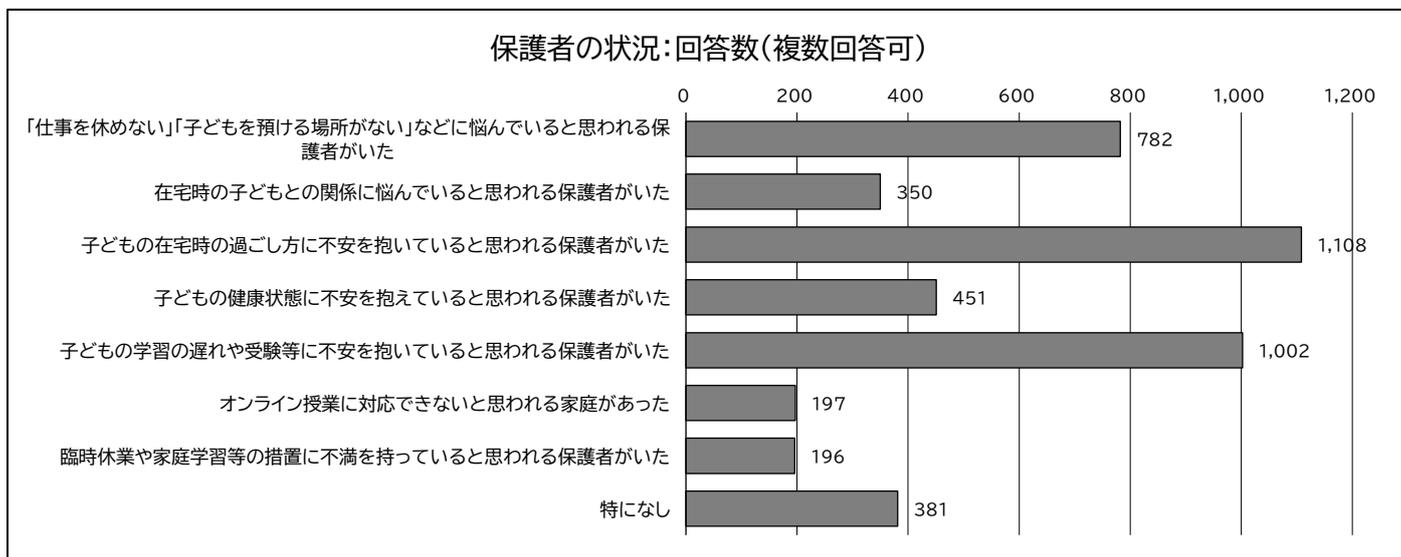
「生活リズムが乱れた子どもがいた」「運動不足の子どもがいた」の2項目が高い割合を示し、この両方とも当てはまると回答した割合は全体の約50%に及ぶ。また4分の1以上の回答者(25.7%)が9項目中4項目以上を選択している。これらから臨時休業期間中に子どもたちが抱えていた困難が多方面に及び、きめ細かなケアが求められていることが改めて示唆された。

－ 臨時休業中から臨時休業明け直後の保護者の状況についての教職員の認識－

設問： 臨時休業期間中から臨時休業明け直後の保護者の状況について、当てはまるものを選択してください（複数回答可）。

◎全体集計結果： 県全体(n=2,130)

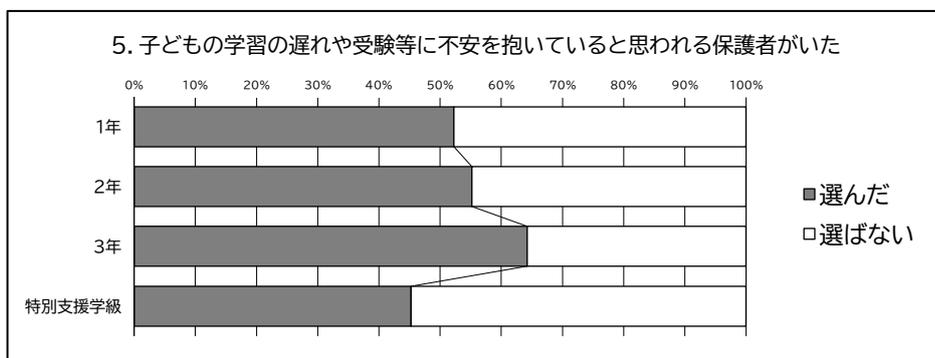
	項目	回答数(複数回答可)	全体に占める割合	順位
1	「仕事を休めない」「子どもを預ける場所がない」などに悩んでいると思われる保護者がいた	782	36.7%	3
2	在宅時の子どもとの関係に悩んでいると思われる保護者がいた	350	16.4%	6
3	子どもの在宅時の過ごし方に不安を抱いていると思われる保護者がいた	1,108	52.0%	1
4	子どもの健康状態に不安を抱えていると思われる保護者がいた	451	21.2%	4
5	子どもの学習の遅れや受験等に不安を抱いていると思われる保護者がいた	1,002	47.0%	2
6	オンライン授業に対応できないと思われる家庭があった	197	9.2%	7
7	臨時休業や家庭学習等の措置に不満を持っていると思われる保護者がいた	196	9.2%	8
8	特になし	381	17.9%	5



◎学年別単純クロス集計(中学校)

「5. 子どもの学習の遅れや受験等に不安を抱いていると思われる保護者がいた」について、学年が上がるにつれて高くなっており、中学3年では60%を超えている。

報告書:25ページ



結果と示唆

教員が認識している保護者(家庭)の不安・困難として最も多く挙げられたのは、「子どもの在宅時の過ごし方」への不安と「子どもの学習の遅れや受験等」への不安であった。特に中学3年の「学習の遅れや受験等への不安」は60%を超えていた。

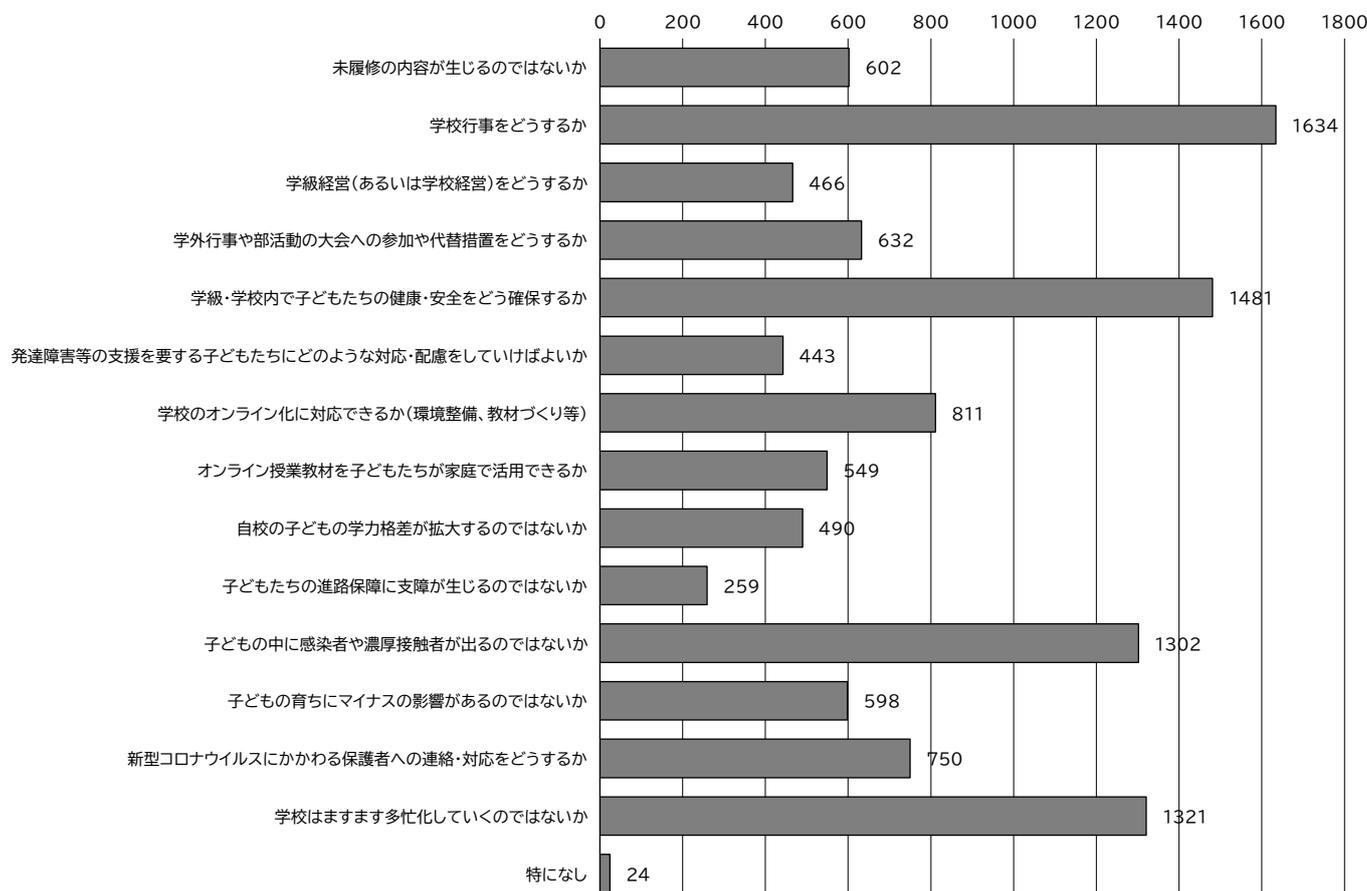
ー長崎県の教職員は“これからの学校教育”に対してどのような不安を感じているかー

設問: これからの学校教育についてお尋ねします。下記の項目のうち、あなたが特に不安を感じているものはどれですか(複数回答可)。

◎全体集計結果: 県全体(n=2,130)

	項目	回答数(複数回答可)	全体に占める割合	順位
1	未履修の内容が生じるのではないかと	602	28.3%	8
2	学校行事をどうするか	1634	76.7%	1
3	学級経営(あるいは学校経営)をどうするか	466	21.9%	12
4	学外行事や部活動の大会への参加や代替措置をどうするか	632	29.7%	7
5	学級・学校内で子どもたちの健康・安全をどう確保するか	1481	69.5%	2
6	発達障害等の支援を要する子どもたちにどのような対応・配慮をしていけばよいか	443	20.8%	13
7	学校のオンライン化に対応できるか(環境整備、教材づくり等)	811	38.1%	5
8	オンライン授業教材を子どもたちが家庭で活用できるか	549	25.8%	10
9	自校の子どもの学力格差が拡大するのではないかと	490	23.0%	11
10	子どもたちの進路保障に支障が生じるのではないかと	259	12.2%	14
11	子どもの中に感染者や濃厚接触者が出るのではないかと	1302	61.1%	4
12	子どもの育ちにマイナスの影響があるのではないかと	598	28.1%	9
13	新型コロナウイルスにかかわる保護者への連絡・対応をどうするか	750	35.2%	6
14	学校はますます多忙化していくのではないかと	1321	62.0%	3
15	特になし	24	1.1%	15

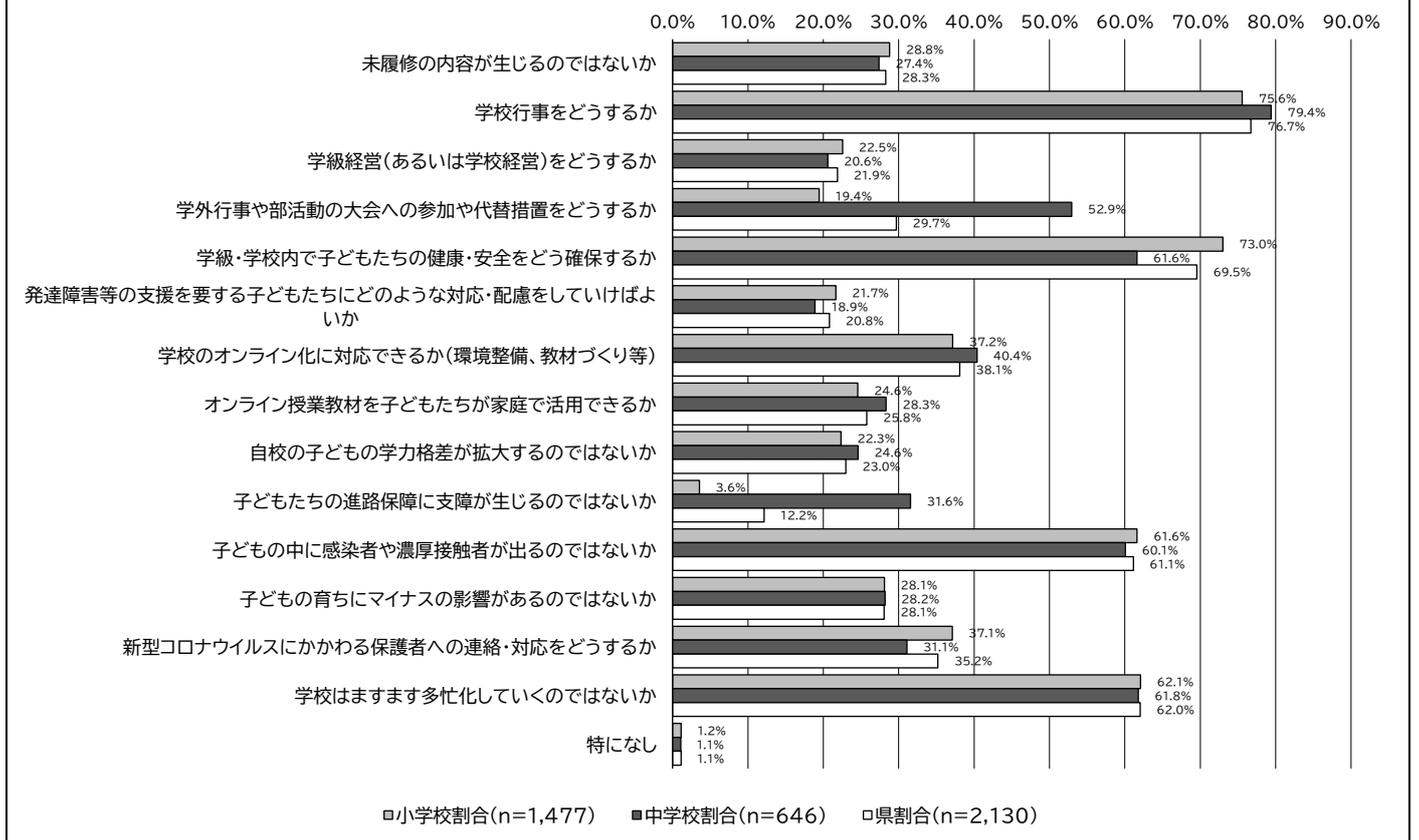
これからの学校教育への不安:回答数(複数回答可)



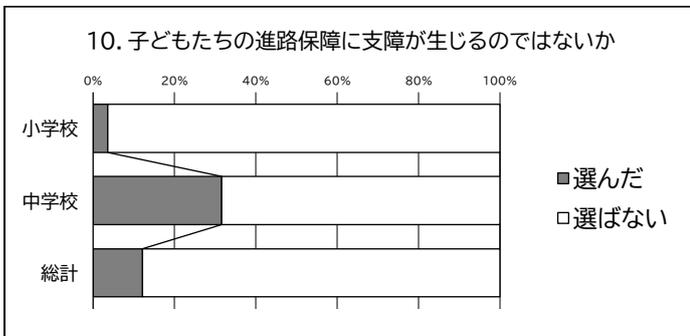
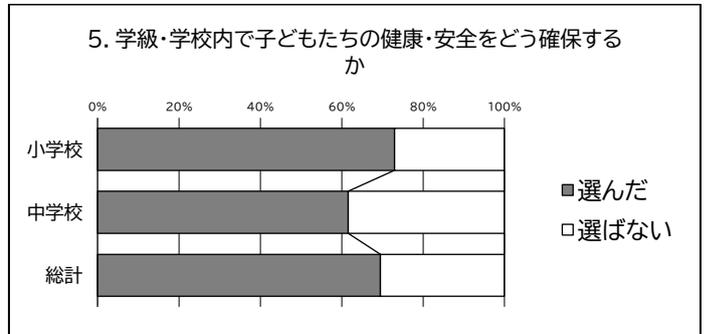
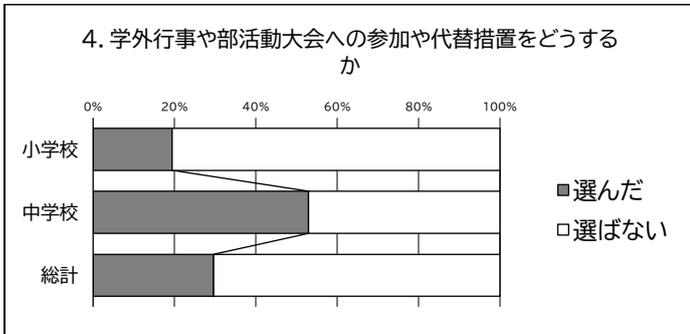
【傾向】小中学校ともに「2. 学校行事をどうするか」が最大の懸念事項となっている。他方で、中学校では学校の多忙化への懸念が第2位、小学校では学級・学校内での子どもたちの健康・安全の確保が第2位となっている。

項目	小学校(n=1,477)			中学校(n=646)			県全体(n=2,130)		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
1 未履修の内容が生じるのではないかと	425	28.8%	7	177	27.4%	11	602	28.3%	8
2 学校行事をどうするか	1116	75.6%	1	513	79.4%	1	1634	76.7%	1
3 学級経営(あるいは学校経営)をどうするか	333	22.5%	10	133	20.6%	13	466	21.9%	12
4 学外行事や部活動の大会への参加や代替措置をどうするか	287	19.4%	13	342	52.9%	5	632	29.7%	7
5 学級・学校内で子どもたちの健康・安全をどう確保するか	1078	73.0%	2	398	61.6%	3	1481	69.5%	2
6 発達障害等の支援を要する子どもたちにどのような対応・配慮をしていけばよいか	320	21.7%	12	122	18.9%	14	443	20.8%	13
7 学校のオンライン化に対応できるか(環境整備、教材づくり等)	549	37.2%	5	261	40.4%	6	811	38.1%	5
8 オンライン授業教材を子どもたちが家庭で活用できるか	363	24.6%	9	183	28.3%	9	549	25.8%	10
9 自校の子どもたちの学力格差が拡大するのではないかと	330	22.3%	11	159	24.6%	12	490	23.0%	11
10 子どもたちの進路保障に支障が生じるのではないかと	53	3.6%	14	204	31.6%	7	259	12.2%	14
11 子どもの中に感染者や濃厚接触者が出るのではないかと	910	61.6%	4	388	60.1%	4	1302	61.1%	4
12 子どもの育ちにマイナスの影響があるのではないかと	415	28.1%	8	182	28.2%	10	598	28.1%	9
13 新型コロナウイルスにかかわる保護者への連絡・対応をどうするか(授業、給食、行事、家庭学習など)	548	37.1%	6	201	31.1%	8	750	35.2%	6
14 学校はますます多忙化していくのではないかと	917	62.1%	3	399	61.8%	2	1321	62.0%	3
15 特になし	17	1.2%	15	7	1.1%	15	24	1.1%	15

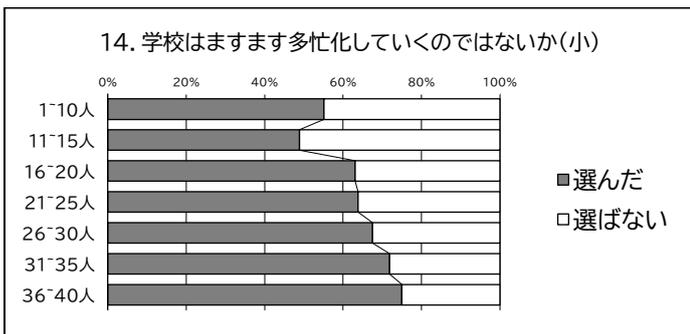
小学校×中学校×県全体比較:これからの学校教育への不安(複数回答可)



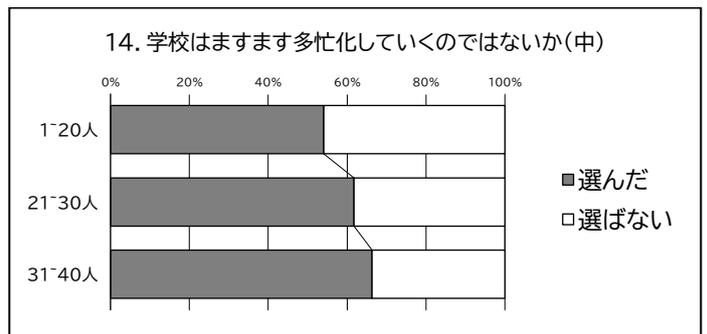
小学校では「5. 子どもたちの健康・安全の確保」項目の回答率が、中学校より10pt.以上高い。子どもたちの実態からしても、小学校では学級・学校内で子どもたちが密になる状況を避けることが難しいことを示唆している。他方、中学校では、「4. 学外行事や部活動大会への参加や代替措置をどうするか」「10. 子どもたちの進路保障に支障が生じるのではないか」の2項目の回答率が小学校に比して圧倒的に高く、30pt.前後の差がある。



◎学級規模別単純クロス集計(小学校)



◎学級規模別単純クロス集計(中学校)



結果と示唆

「これからの学校教育への不安」として、「学校行事」「子どもの健康・安全の確保」「学校の多忙化」「感染者・濃厚接触者がでること」の4項目の回答率が高く、回答者の6割以上が不安視している。校種別比較では、小学校で子どもの健康・安全の確保に対して、中学校で部活動や進路保障に対して、それぞれ他校種に比して回答率が高い。また、「学校の多忙化」への不安は、小中ともに学級規模が大きいほど回答率が高い。

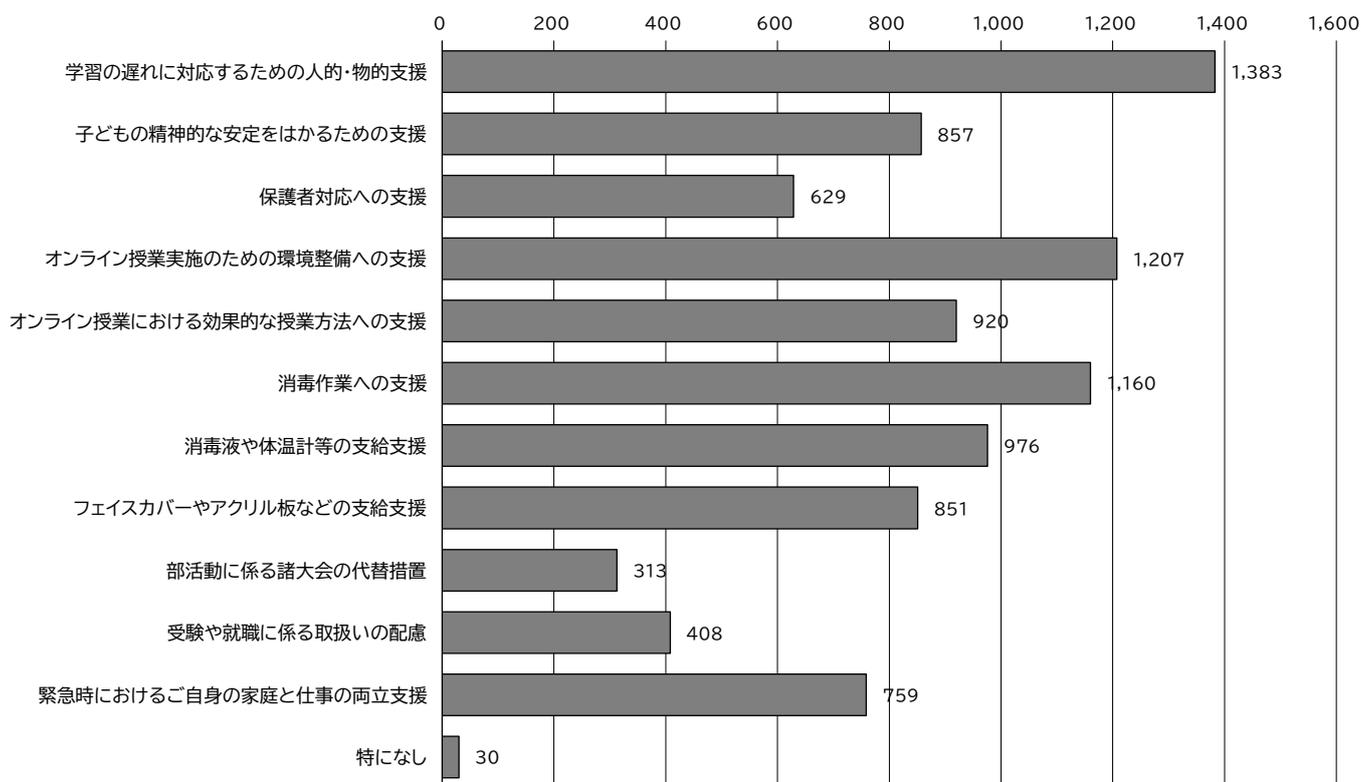
ー長崎県の教職員はどのような支援と配慮を必要としているかー

設問: コロナ禍の学校教育に対する支援や配慮として、とくに必要性を感じているものを選択してください(複数回答可)。

◎全体集計結果: 県全体(n=2,130)

	項目	回答数(複数回答可)	全体に占める割合	順位
1	学習の遅れに対応するための人的・物的支援	1,383	64.9%	1
2	子どもの精神的な安定をはかるための支援	857	40.2%	6
3	保護者対応への支援	629	29.5%	9
4	オンライン授業実施のための環境整備への支援	1,207	56.7%	2
5	オンライン授業における効果的な授業方法への支援	920	43.2%	5
6	消毒作業への支援	1,160	54.5%	3
7	消毒液や体温計等の支給支援	976	45.8%	4
8	フェイスマスクやアクリル板などの支給支援	851	40.0%	7
9	部活動に係る諸大会の代替措置	313	14.7%	11
10	受験や就職に係る取扱いの配慮	408	19.2%	10
11	緊急時におけるご自身の家庭と仕事の両立支援	759	35.6%	8
15	特になし	30	1.4%	12

コロナ禍の学校教育に必要な支援や配慮:回答数(複数回答可)



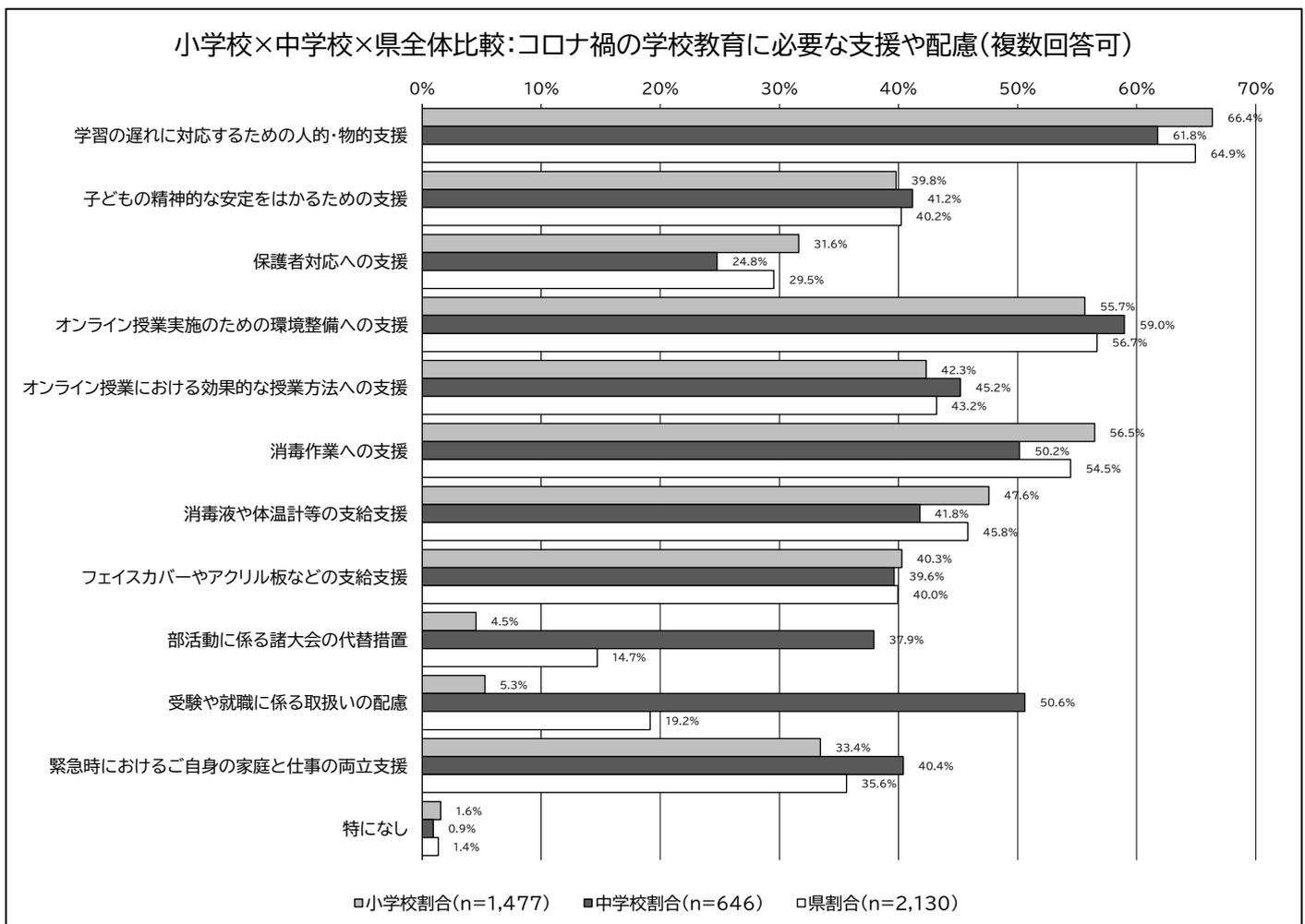
結果と示唆

回答者の98%以上が何らかの支援や配慮を求めている(特になし:30件)。

支援の内容は、子どもたちの学習の遅れに対応するための人的・物的支援や、オンライン授業実施のための支援など、学習支援にかかるニーズが高いことがわかった。また、「消毒作業への支援」「消毒液や体温計等の支給支援」の回答数も多く、学習支援と合わせ、感染拡大防止への支援も必要と考えられる。

「1.学習の遅れに対応するための人的・物的支援」は、小中学校ともに最上位の「必要な支援」項目となっている。小学校では「6.消毒作業への支援」「7.消毒液や体温計等の支給支援」の順位が中学校と比べて高く、中学校では「10.受験や就職に係る取り扱いの配慮」の順位が小学校と比べて高くなっている。

項目	小学校(n=1,477)			中学校(n=646)			県全体(n=2,130)		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
1 学習の遅れに対応するための人的・物的支援	980	66.4%	1	399	61.8%	1	1,383	64.9%	1
2 子どもの精神的な安定をはかるための支援	588	39.8%	7	266	41.2%	7	857	40.2%	6
3 保護者対応への支援	467	31.6%	9	160	24.8%	11	629	29.5%	9
4 オンライン授業実施のための環境整備への支援	822	55.7%	3	381	59.0%	2	1,207	56.7%	2
5 オンライン授業における効果的な授業方法への支援	625	42.3%	5	292	45.2%	5	920	43.2%	5
6 消毒作業への支援	834	56.5%	2	324	50.2%	4	1,160	54.5%	3
7 消毒液や体温計等の支給支援	703	47.6%	4	270	41.8%	6	976	45.8%	4
8 フェイスカバーやアクリル板などの支給支援	595	40.3%	6	256	39.6%	9	851	40.0%	7
9 部活動に係る諸大会の代替措置	67	4.5%	11	245	37.9%	10	313	14.7%	11
10 受験や就職に係る取り扱いの配慮	78	5.3%	10	327	50.6%	3	408	19.2%	10
11 緊急時におけるご自身の家庭と仕事の両立支援	494	33.4%	8	261	40.4%	8	759	35.6%	8
12 特になし	24	1.6%	12	6	0.9%	12	30	1.4%	12



「学校教育への支援・配慮として必要なこと」、「コロナ禍で困ったこと」、「今後の学校教育の在り方」等に関する自由記述を求めたところ、約 800 件の回答がなされた。

調査者5名で質的コーディングの手法で全回答を整理したところ、「学校教育への支援・配慮として必要なこと」は7カテゴリー、「コロナ禍で困ったこと」は 15 カテゴリー、「今後の学校教育の在り方」は7カテゴリーに分類できた。

### 【カテゴリー】

#### 学校教育への支援・配慮として必要なこと

- 1 子どもの育ちの保障とケア
- 2 基礎的な教育条件の改善
- 3 With コロナの教育環境・教育支援・教育方法の充実
- 4 関係者(子ども・教職員・家庭)が感染者・濃厚接触者となった場合の配慮・保護
- 5 コロナ対策に関するリソースの確保(正しい情報・研修・感染防止策・検査等)
- 6 コロナ禍における働き方改革
- 7 学校運営体制の強化(外部協力・連絡手段・危機管理マニュアル・産官学連携)

#### コロナ禍で困ったこと

- 1 3密回避の難しさ／クラスター発生への不安
- 2 学びの場・成長のチャンスの消失(学校行事の中止、対話・発声・集団づくりを伴う活動と3密回避の両立困難を含む)
- 3 授業の遅れ、学習の機会均等、高校受験等への影響の懸念
- 4 子どもの不安・心身の変化・運動不足等への対応(特別な支援を要する児童生徒への対応を含む)
- 5 感染症防止に向けた指導の難しさ／教職員・児童生徒の意識の低下(手洗い・うがい、給食対応など)
- 6 コロナ対応に伴う教職員の多忙化・疲弊
- 7 状況に応じた対応判断・意思決定・合意形成の必要性・難しさ・負担(市町間・学校間での対応の相違、教育活動に係る教職員間や学校－家庭間の考え方の相違、見通しのなさへの不安を含む)
- 8 臨時休業要請をめぐる対応の難しさ・負担(学びの保障、保護者不在時の対応、教職員の働き方、学級経営への影響懸念を含む)
- 9 児童生徒・教職員・自身の感染時の対応や人手不足への不安(島特有の不安を含む)
- 10 マスク装着のつらさ・困難さ、熱中症への懸念
- 11 噂・憶測・偏見・過度な批判等の広がり(正しい情報の収集の必要性を含む)
- 12 保護者・地域住民等への対応・支援、連携協働活動の実施の難しさ
- 13 家庭間の経済格差・環境の違いによる教育活動実施への影響・懸念
- 14 コロナ禍での教育活動実施のための条件整備の不足(オンライン環境、感染防止物品、学校予算の不足・裁量権の小ささ)
- 15 行政対応の遅さ・不統一・現場の実態からの乖離

#### 今後の学校教育の在り方

- 1 With コロナの学校教育の在り方の検討(オンライン活用含む)
- 2 学校における感染拡大防止策の検討
- 3 学校・教員の自律性の向上
- 4 自分で判断できる子どもの育成
- 5 既存の業務の見直しや効率化
- 6 既存の教育活動の精選・弾力化の検討
- 7 既存の教育活動の意義の再確認

#### その他

- 1 学校の存在意義の再確認
- 2 教員免許状更新講習への対応
- 3 文部科学省による通知内容・コロナ対応への不満
- 4 教育実習の受け入れ

## ポイントと示唆

予測不可能な事態へ学校個別での対応が困難であった状況が自由記述から読み取れる。それゆえ、管理職を含む教職員の多くが、「行政による支援の充実」を求める傾向がみられた(対応の迅速性、県・市町での対応の統一など)。一方、予測不可能な事態だからこそ、行政等の指示・通達に依存するだけでなく、学校・教職員が自律的に対応する能力を高める必要性を述べる記述や、既存の学校教育内容・業務の再検討の必要性を述べる記述、既存の教育活動の意義を再確認する必要性を述べる記述もみられた。

また、感染拡大によって生じた新たな業務への対応や、with コロナにおける子どもたちの学びの充実を図るためにも、「基礎的な教育条件の改善」を求める回答も多数みられた(人的支援、学級規模の縮小、教員加配の実現など)。

長崎大学として、上記のような観点における専門的知見の提供や、学生をはじめとするマンパワーの提供などにおいて、学校現場への貢献可能性が見出せるのではないだろうか。

以下、各カテゴリーの具体例である。

### 6-1. 学校教育への支援・配慮として必要なこと

#### 1 子どもの育ちの保障とケア

- (例)・不登校や登校しぶり傾向の子どもの支援等が必要である。(小学校、教頭)
- ・学校は基本的に、密になることを避けられない場であり、他とのコミュニケーションが制限される中、児童に、今後どのような影響が出てくるのか心配である。(小学校、教頭)
  - ・オンライン授業が受けられない貧困家庭の児童の学力の低下、学力格差が生じないように考えなければならない。(小学校、教頭)
  - ・運動会をはじめとする教育効果の高い学校行事等を実施したいが、配慮事項に悩んでいる。授業においても、そのような配慮事項に関わる環境整備に支援してほしい。(中学校、校長)
  - ・コロナ禍に限らず、人的配置が必要である。目に見えない不安との戦いの連続であるので、児童生徒、保護者、教職員等の心の安定を図るため、スクールカウンセラー配置や派遣の拡充が望まれる。(中学校、校長)

#### 2 基礎的な教育条件の改善

- (例)・学校が抱える様々な問題及び今回のコロナの問題、そのどちらも解決できるのは30人学級の実現だと思います。(中学校、教諭・助教諭)
- ・小規模校なので、職員がり患した場合の、児童への対応が重い。職員の代わりがないと、職員のり患が拡大した場合、授業等対応できない心配がある。(小学校、教頭)
  - ・対面授業を実施できる学級定員と教員配置、教室数の確保が必要。(小学校、校長)

#### 3 Withコロナの教育環境・教育支援・教育方法の充実

- (例)・ICT機器の整備と職員の技能習熟の時間の確保 オンライン化に向けたガイドラインの策定(小学校、教諭・助教諭)
- ・大変難しいとは思いますが、ネットで学習をサポートできるサイトをつくってほしい。例えばゲーム感覚で問題(クイズ)をクリアしてレベルを上げていくソフトをつくっていただくとか、単元の小テスト問題を無料ダウンロードできるようにするとか(基礎基本的なもの)していただくで大変助かります。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・今後は、家でもオンライン授業が受けられるよう整備するために学校に十分な経費が必要である。(小学校、校長)
  - ・オンライン授業への職員の対応が心配です。研修が必要(小学校、校長)
  - ・効果的なオンライン授業実現のための教職員を対象とした研修。知識技能の詰め込み学習からの脱却と主体的・対話的で深い学びの実現。子供が集う学校教育の限られた時間で何を大切にするか、優先順位の明確化。オンライン授業でできること、教室でできることの差別化。(小学校、副校長・教頭)

#### 4 関係者(子ども・教職員・家庭)が感染者・濃厚接触者となった場合の配慮・保護

- (例)・教職員や児童が感染者や濃厚接触者になったとしても、人権(プライバシー)がきちんと守られ、回復した時に登校や職場復帰がスムーズにできるような配慮が必要だと思う。(小学校、教諭・助教諭)
- ・学校の生徒・教職員が発生した時の誹謗中傷や差別などの発生が心配である。(中学校、校長)
  - ・保護者や子どもが陽性と判明した場合、誰が責任をもって相談に乗ってくれるのか?このような実際に罹った場合の地域別具体例がわからないから、不安になる。(小学校、教諭・助教諭)

#### 5 コロナ対策に関するリソースの確保(正しい情報・研修、感染防止策・検査等)

- (例)・自分が感染しないように気をつけて生活しているが不安である。教職員が検査を受けることができるようになる

いいと思う。また、自分たちは気をつけているが、研修で島外に行かなくてはならなかったり、島外から訪問して授業参観などをされると不安になる。(小学校、教諭・助教諭)

- ・マスクの寄付や支給があったのはとても助かった。消毒液や体温計などなかなか手に入らず、とても困っている。ぜひ支給していただきたい。(小学校、養護教諭・養護助教諭)
- ・情報(テレビ・新聞・ネット)の取捨選択が難しい、何をどう生徒へ伝えればいいのか迷うことが多い(中学校、校長)
- ・県主催の感染症研修などで、職員の意識を向上させる必要性を感じます。職員の予防意識の差が行動となり、感染拡大に繋がると思われます。(中学校、養護教諭・養護助教諭)
- ・コロナ対策の有効な手立て情報、コロナ感染情報の不足(小学校、校長)

## 6 コロナ禍における働き方改革

(例)・リモート授業は準備の手間が3倍以上かかるので、人的支援や、残業の補償が必要だと思う。掃除や消毒は業者を入れるべきではないか。(中学校、教諭・助教諭)

- ・コロナ対応でオンライン授業等がとりあげられているが、教師側の過重負担も考えなければならない。(小学校、教諭・助教諭)

## 7 学校運営体制の強化(外部協力・連絡手段・危機管理マニュアル・産官学連携)

(例)・消毒作業がとても大変。作業員がいると助かる。(小学校、教諭・助教諭)

- ・急な休校延長があったりする中、それを電話連絡をするのが負担です。(連絡網を回す中で内容が変わってしまったこともあり)一斉連絡メール等を各学校整備できないものでしょうか。(中学校、教諭・助教諭)
- ・コロナ対策を行うことで、教員の仕事の負担は大きくなったことは明らか。これから学校ですべきことや校務の精選、オンライン学習を含めた教材研究と環境整備が急務であると感じている。そのためにも、地域や大学からの人材は貴重になるし、今後も協力していただきたいと心底願っている。(小学校、教諭・助教諭)
- ・離島の学校では、地域の高齢化が進んだ実情の中で、対策をすすめている。地域の实情にあわせた診療所や行政の支援、感染疑い発生時のフローチャート作成や校内対策への助言など、連携体制の構築が有難く感じた。(中学校、教頭)
- ・実際に自校の児童及び職員が感染した場合、どういう対応をするか危機管理マニュアルの中に入れる必要があるが、まだ対応できていない。(小学校、養護教諭・養護助教諭)
- ・何よりも人的支援の必要性を感じている。(小学校、校長)
- ・ヒト、モノ、カネと言われるが、どれも欲しい。校長の権限の拡大もあるといい。(小学校、校長)

## 6-2.コロナ禍で困ったこと・危惧していること

### 1 3密回避の難しさ/クラスター発生への不安

(例)・コロナ対策として、何をどうすればいいのかまだ不明瞭で、学校ごとに違うことも多い。物的資源の提供があろうが、目的がはっきりしてないと保護者や子供にどう説明していいかわからない。(小学校、教諭・助教諭)

- ・学校は、三密を避ける環境にない。形式的に席を離したり、前を向いて給食を食べたりなど工夫しても、休み時間など子どもたちは、1m以上離れて活動することは不可能であり、非現実的理想である。本当に意味のある、効果がある取り組みを提示してほしい。(小学校、教諭・助教諭)
- ・感染拡大防止策をとりながら、学校行事をどう進めていけばよいのか(小学校、教諭・助教諭)
- ・キャンセル料発生に伴う修学旅行実施の有無と代替措置の在り方(中学校、校長)
- ・修学旅行、宿泊学習で、発熱等あった場合の対応(小学校、校長)

### 2 学びの場・成長のチャンスの消失(学校行事の中止、対話・発声・集団づくりを伴う活動と3密回避の両立困難を含む)

(例)・昨学年末の急な休校措置。意気揚々と入学・進級した後の再びの休校で、生徒たちはとても不安だったようです。加えて学校行事や中体連の中止や縮小、延期など、目標を悉く摘まれ、目に見えてやる気が削がれていくのがわかりました。賢く、予てから将来を見据えている生徒は、精いっぱい自分のコントロールに努めていますが、思春期真っ只中で、心身不安定な生徒は、確実に去年出来ていたことができなくなるくらい、明らかにクオリティが低下しています。日々の小さな生徒指導が増え、生徒たちはやり遂げて喜ぶというチャンスが減り、特に3年生は大事な1年が狂ってしまっているのが現状です。何とか、卒業までいい思い出も作ることができるようにと、頑張っています。(中3年 担任として)(中学校、教諭・助教諭)

- ・子どもたちは密になりがちであるため、細かい配慮や注意が必要だと思います。また、学習のなかでもグループ学習、行事(野外宿泊や修学旅行など)への対応の難しさを感じます。(小学校、講師)
- ・その学年でしか体験できない学習や行事の変更や中止、延期が、今後どのような影響を及ぼすか。(小学校、校長)
- ・それぞれの発達段階に応じた教育活動ができない、行事等を通して成長の姿を見ることができていたことができない。それに代わる有効な教育活動をどう仕組むかが一番の悩みであり、課題である。(中学校、校長)

### 3 授業の遅れ、学習の機会均等、高校受験等への影響の懸念

(例)・臨時休業日や登校日など、長崎県で統一した日程にしないと、教育課程の習熟に差が生じてしまいます。この点については、改善が必要である。(小学校、教諭・助教諭)

- ・突然の対応が最も混乱した。準備期間もなく、数日後に休校では生徒・教師も無力感を感じた。地域にも差があり、柔軟に対応しても良かったのではないかと感じた。高校受験を控え、不安が増した。(中学校、教頭)
- ・本校は少人数の学校であるため、密になる状況はあまりないが、臨時休業等により学習の遅れは心配される。しかし、オンライン学習など各家庭でネット環境が整備されているかどうかの格差があり、その点の解決方法がよく分からないのが今のところ心配されている点である。(中学校、教諭・助教諭)
- ・コロナ禍における教育課程の目的、意義の達成(中学校、校長)
- ・授業時数の確保、各教科教育課程の実施(小学校、校長)

#### 4 子どもの不安・心身の変化・運動不足等への対応(特別な支援を要する児童生徒への対応を含む)

- (例)・公立学校の個人格差の問題が、休校期間の家庭での学習の在り方や保護者の関わり方の違いのために、ますます大きくなってしまっています。それに加えて厄介なことに、ゲームやメディア漬けになってしまう子どもが、学校が再開してもそこから抜け出せなくなってきています。これまでは、私たち教師が学校で子どもと関わる中で、少しでも改善するよう支援できてき子もいました。しかし、今の状況では、家庭での関わり方の差を、教師の関わりや学校生活だけでは埋められなくなってきていることを感じます。(小学校、教諭・助教諭)
- ・特別支援学級担任としては、一人一人の学習内容が違うため個別の課題を準備したり、いかに社会性を学ばせる課題に取り組ませるか悩んだり、悩むことがあった。今後、又休校措置がとられた場合の具体的な対応策が未だに決まっていない。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・教室の授業では3密を避けるのは難しい。いろいろなことが制限されるので、のびのびと活動できず、子供達の精神面、身体面の健康が気になる。新1年生は、やる気を持って入学したが、5月の休校で、この決意や抱負が、トーンダウンしてしまって残念だった。(中学校、教諭・助教諭)
  - ・対人関係ストレスを抱える児童への対応、体験活動実施のための工夫(小学校、校長)

#### 5 感染症防止に向けた指導の難しさ／教職員・児童生徒の意識の低下(手洗い・うがい、給食対応など)

- (例)・私のクラスは39人います。でも、教室は一つしかなく、もし仮に教室を空き教室と二つに分けたとしても担任は一人しかおらず指導できません。毎休み時間に換気、うがい・手洗いを呼びかけましたが限界がありました。三密は避けられません。(小学校、教諭)
- ・授業内容を工夫したり集会をカットしたりしてどんなに「密」を避けようとしても、休み時間等は友達同士近くに寄るのが子ども達である。さらに給食時にはみんなで配膳するため、人の触ったものを口にするようになる。「もし1人でも感染者が出れば、間違いなくクラスターが発生する。」と、職員室で話している。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・どの程度の感染対策が必要か、職員間でも意識に温度差があり、ギスギスする。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・新しい生活様式について職員も児童も徹底の困難さを感じるがあった。感染拡大など見通しが持てないことに不安を感じる。(小学校、教頭)
  - ・一人ひとりの教員がしっかりと危機意識をどれだけ持てるかが、その後の流れ等に大きく影響してくる。学校全体として、危機意識を高めていきたい。(小学校、校長)

#### 6 コロナ対応に伴う教職員の多忙化・疲弊

- (例)・急な休校や分散登校の決定がたびたびあり、食材の中止や献立変更、関係機関への連絡が相次ぎ、その作業で時間を費やした。また、他校を訪問しての指導を躊躇した。(中学校、栄養教諭)
- ・学校教育に対する予算措置が不十分すぎる。無い袖は振れない状況が多すぎる。現場の善意に甘えている部分が大きく、現場は疲弊している。(中学校、教諭・助教諭)
  - ・マンパワー不足を特に感じる。コロナの緊急対応に加え、毎日の消毒や予防に向けた指導など、毎日やるべき業務も確実に増えた。時間内に業務を終えることが困難な日が多い。(中学校、副校長・教頭)

#### 7 状況に応じた対応判断・意思決定・合意形成の必要性・難しさ・負担

(市町間・学校間での対応の相違、教育活動に係る教職員間や学校-家庭間の考え方の相違、見通しのなさへの不安を含む)

- (例)・先が見えず具体的に何が必要なのか精査できていないこと(中学校、教諭・助教諭)
- ・部活動などの練習試合はどうするか。規程上はできるが、校長がリスクがあるからやめるべきと話をしてきた。保護者はしたい思いがつよい。どちらが正解ということがないので難しい。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・各地域で取り組みに違いがあり、他校の話を知ると、子どもも大人も気持ち的に動揺したり、モチベーションの低下につながったりする。動揺を抑えるために、一律に行動した方が良いと思います。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・児童が感染したり、家族が感染したりして学校が長期間、臨時休校になった場合、いかに児童の学力保証をしていくか。(学習課題を作成していくためには、かなりの時間と労力が必要となる。また、オンライン授業を行うだけの環境が現時点では、まだ十分に整っていない。)(小学校、教頭)
  - ・状況が次々と変化し、各学校で状況が異なり、対応が難しい(小学校、教頭)
  - ・判断し決定することや方向性を示すことに難しさを感じている。最終的には「学校判断」になることが多いので、子供や保護者、先生方が安心できるよう、管理職としての在り方が問われている。実に鍛えられている思いだ。(小学校、教頭)
  - ・延期して2学期に実施予定の学校行事(特に、運動会、修学旅行、宿泊体験学習)を実施する際の条件や配慮事項な

どの判断が難しい。(小学校、校長)

## 8 臨時休業要請をめぐる対応の難しさ・負担

(学びの保障、保護者不在時の対応、教職員の働き方、学級経営への影響懸念を含む)

- (例)・見通しが立たないことによる漠然とした不安。行事などの実施の決定をいちいち協議しなければならない。(中学校、教諭・助教諭)
- ・入学後、間もない時期の臨時休校で、課題の作成に苦労した。学校再開後、転んで怪我をする子どもが多く、運動不足だと感じた。マスクを口に入れる子どもがいたり、落としたものを付ける子どもがいて不衛生で、常に着用を指導するのが苦になる。(小学校、教諭 再任用)
  - ・保護者の携帯電話しかないところは、保護者が仕事の場合、日中に生徒本人と連絡がとりづらい(中学校、教諭・助教諭)
  - ・臨時休業措置のみが先に決定され、具体的な学級経営については、その時点では示されず、後から少しずつ、小出しで方針が出されたので、現場はかなりの困難が生じた。大きな決定を下す場合は、それにより影響を受けることを想定し、あらゆる角度から対応策を検討していただきたい。(小学校、教頭)
  - ・在宅勤務がほぼ取れず、我が子はほったらかしになってしまっていました。(小学校、教諭・助教諭)

## 9 児童生徒・教職員・自身の感染時の対応や人手不足への不安(島特有の不安を含む)

- (例)・もしも自分が感染したら、教師として続けていけなくなるのではないかと不安がある。(中学校、教諭・助教諭)
- ・小さな島という閉鎖的な空間での感染症流行は、想像以上に怖いと感じた。(高齢者の割合が高い、感染者の情報があつという間に島中に広がる、医療体制の少なさなど)自分自身が感染しないように、また子どもたちを差別や偏見下に置かないようにと、非常に気を付けている。船で島から出るには、福岡県、佐賀県を通らなければならないため、不安が大きい。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・小規模校なので、職員がり患した場合の、児童への対応が重い。職員の代替えがないと、職員のり患が拡大した場合、授業等対応できない心配がある。(小学校、教頭)
  - ・感染症対策が加わったことが教員の負担になっている。また、どんなに対策を講じても完全ではないので、いつ学校で感染者が出るかも不安である。(小学校、校長)
  - ・職員もしくは家族が感染あるいは濃厚接触者になった場合の授業の維持(小学校、校長)

## 10 マスク装着のつらさ・困難さ、熱中症への懸念

- (例)・子どもたちの意識が低かったり、幼かったりするために、距離をとったりマスクや手洗いを徹底するのが難しく、不安が大きい。(小学校、教諭・助教諭)
- ・教師も生徒も常時マスク等をしている姿が、当たり前になるのか？学習活動をするうえで、やはり支障を感じる。(中学校、校長)
  - ・マスク着用を嫌がる生徒へどのように声掛けをするか悩むことがある。また、熱中症とコロナ対策の在り方も課題だと思う。(中学校、教諭・助教諭)
  - ・夏の暑い時期に行われる学校給食での、職員の熱中症対策。調理場内は37℃を超えます。(中学校、栄養教諭)

## 11 噂・憶測・偏見・過度な批判等の広がり(正しい情報の収集の必要性を含む)

- (例)・噂や憶測での情報が信憑性を持って広まりやすいと感じた。(中学校、教諭・助教諭)
- ・プライバシーに配慮することと、必要な情報を得ることの両立。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・学校現場は3密を避けられない現状を強いられているにも関わらず、無症状の感染者(児童等)から教員に感染して発症した場合、教員が感染源として不当な扱いや誹謗中傷を受けるのではないかと非常に懸念している。(小学校、教諭・助教諭)
  - ・コロナをどの程度恐れ、学校の活動や行事をどの程度できるのか判断するのが大変難しい。(小学校、教諭・助教諭)

## 12 保護者・地域住民等への対応・支援、連携協働活動の実施の難しさ

- (例)・マスコミの情報に振り回される保護者が少なからず存在する。正しい情報のもと、正しく恐れることは、言うのは簡単だが実際は困難である。(小学校、校長)
- ・これまで実施してきた地域協働の教育活動の在り方について(小学校、校長)
  - ・コロナ禍で生徒の生活リズムが乱れ、ネットやゲーム依存になった生徒が増えたと感じる。また、運動不足も加え、生徒自身の不安やイライラが家庭内で増えたと聞く。それが、保護者の不安にもつながっていると感じる。保護者支援が必要だと感じる家庭が増える。(中学校、教諭・助教諭)
  - ・修学旅行や野外宿泊活動等宿泊を伴う行事に対する保護者の意見に温度差が大きく、対応に苦慮している。行政から一定の指針が出せないかと思う。(中学校、校長)
  - ・コロナ禍だけでなく大雨や台風による臨時休業が多く、授業時数の確保や学校行事をどうするか日々考えている。また、育友会の活動がほとんどできていない。(中学校、教頭)

## 13 家庭間の経済格差・環境の違いによる教育活動実施への影響・懸念

- (例)・オンライン学習に対する環境が、学校側も家庭側も整っていないので、臨時休校等で全く登校できなくなったときの不安が大きい。県内でも学習環境の格差があり、取り残されていくのではとってしまう。(小学校、教諭・助教諭)

- ・ICTを活用したオンラインによる学習支援は必要だと考えているが、ネット環境が整っていないご家庭の負担を考えるとなかなか進みが難しい。ご家庭の経済的な負担がかなり大きいと感じている。また、ネット依存の子どもが増えていくのではないかと強く危惧している。休校期間中の子どもたちのネット環境を使ったゲーム依存は計り知れない。(小学校、教諭・助教諭)
- ・学力格差と経済格差の関係(中学校、教諭・助教諭)

#### 14 コロナ禍での教育活動実施のための条件整備の不足 (オンライン環境、感染防止物品、学校予算の不足・裁量権の小ささ)

- (例)・学習保障にはオンラインは不可欠だと考えるが、環境整備には学校単位での対応は困難さがあり、ギガスクール構想等の大規模な対応が急務だと考える。(小学校、校長)
- ・消毒液や液体石けんなど必要な消耗品の確保や予防対策の実施について、これからの学校行事を実施するにあたってのマニュアル作成など大変不安です。(小学校、養護教諭・養護助教諭)
- ・学習の保障に関しては、十分な人員の確保とワークシート類購入への資金増を望む。(小学校、教頭)
- ・必要な物資が届かない(マスク、消毒液、非接触型体温計、フェイスシールドなど)(小学校、校長)

#### 15 行政対応の遅さ・不統一・現場の実態からの乖離

- (例)・自治体によって、学校行事や部活動への対応が違いすぎる。現勤校がある地区では修学旅行や部活動の遠征など、他地区への移動を伴うものを学校判断で行わせるという状況だが、感染した場合の責任の所在がどこにあるのかははっきりしないのに学校判断で行わせるのは無理があると思う。(中学校、教諭・助教諭)
- ・状況が変わる度に、変更の文書を作成、印刷、配布を通常業務とは別に行わなければならない。特に対外的なやり取りが必要な行事などは、連絡、調整が大変である。また、消毒作業等もともと小規模校で人手がない中新たに行うべき仕事となっているので、多忙感を感じてしまう。本来業務以外の懸案が多すぎると感じてしまう。(小学校、教頭)
- ・コロナ対策と保障のために物品の購入希望調査やオンライン授業対応のための研修が行われようとしているが、遅い。(小学校、教諭・助教諭)
- ・学力保障は必要だが、全てのカリキュラム履修を達成できない場合等、臨時的な対応への明確な指針が必要。(小学校、教頭)
- ・全学的な対応の指針の在り方が明確であってほしい。(小学校、校長)
- ・見通しがつかない状況が続く、大変である。これからも継続すると思われる。優先すべき課題は何なのかを見極めた行政対応をお願いしたい。(中学校、校長)
- ・修学旅行を行う際の明確な判断基準がほしい(小学校、校長)

### 6-3.今後の学校教育の在り方

#### 1 Withコロナの学校教育の在り方の検討(オンライン活用含む)

- (例)・アフターコロナという捉えよりも、withコロナとして、コロナウイルスと付き合いながら学校生活を送るという意識付けが必要なのではないか。そのための具体的方策が打ち出されることをのぞんでいます。(小学校、教諭・助教諭)
- ・今の職場では、オンライン授業に関して、消極的な意見が多い。今でこそ、感染症の影響があまり出ておらず、必要性を感じていないのかもしれないが、いずれ必ずやってくる大きな変化に対応できるか不安。「仕事が増える」「全員が端末を持っていない」「全員が等しく学ぶことができない」など、「これを機にやってみよう」とはならなかった。新型コロナウイルスの流行によって、良くも悪くも「変わらない」「変わりたくない」学校教育現場の様相が呈されたように思えた。「授業時数確保」や「学習内容の確実な定着」「そのための宿題はどうするか」のような、「今をどうやり抜くか」ばかりだった。「Withコロナ」の時代に向けて、今後の学校教育がどうあるべきか、そのような議論は全くなかった。(小学校、教諭・助教諭)
- ・まず、臨時休業をどのように判断するかということの基準をはっきりさせたい。そして、学びを止めないということに対して、どれくらいの覚悟と柔軟性を持つか、市教委、校長会ともに決断と具体的な行動が必要。(小学校、校長)
- ・ZOOM等を使ったオンライン研修をとおして、出張せずともこういった研修のやり方で構わない、むしろ、その方がよいと感じることが多々あった。また、暑い中、体育館に集めて行っていた終業式や平和集会も、ZOOMを使うことで空調の効いた各教室で実施することができ、却ってその方がよいと感じた。コロナによって強制的にオンラインで行わざるを得なかった様々な取り組みをとおして、今後、学校教育の形が大きく変わると思った。(小学校、教頭)
- ・早めの想定や臨機な対応が求められる。前例に捉われず、思い切って経営していくことで、ピンチをチャンスにした。(小学校、校長)

#### 2 学校における感染拡大防止策の検討

- (例)・現状の感染防止の取組で生徒・教職員の命(健康)を守れるか、心配である。(中学校、校長)
- ・国と県や市とのコロナウイルス感染防止の方針を統一してほしい。また、経済ではなく、子どもたちの安全を優先し

てほしい。(小学校、講師)

- ・3密阻止のため、ペア学習やグループ学習などがやりにくくなり、学習指導要領が提唱している「主体的・対話的で深い学び」の実践がやりにくくなっている。マスク着用や3密を避けるなど感染拡大防止対策を施しているが、1つの教室の中に、誰か一人感染者がいれば、マスクをしていようがしていまいが、ペアやグループを避け、座席を個別にしようが、しまいが、いずれにせよ、感染すると思います。学校における感染拡大防止策の在り方を再検討していただきたく思います。(中学校、教頭)

### 3 学校・教員の自律性の向上

- (例)・一番の不安材料は見通しが持てないことである。これは子供にも教師にも言えることである。心的な不安が今後増すものとする。ひいては、そのことで学級経営や子供の育ちに影響が出てくるものとする。行政からの指示や指導を大切にしつつ、学校や自身が自律的であることが望まれる。そうした構えを物心両面で行っていききたい。(小学校、教頭)
- ・もう一度県教育長のメッセージにある「コロナ禍でもできること」を模索していきたい。今こそ、教職員がクリエイティブになることが重要である。(小学校、校長)

### 4 自分で判断できる子どもの育成

- (例)・今後は、学校(職場)での諸対策同様、家庭のメンバーにうつさない、家庭のメンバーからうつされない具体策ができる生徒を育てていく必要性を感じます。(中学校、教頭)
- ・今後は子どもたち自身が、自分や周囲の健康を守る意識をもって常に行動できるよう、指導・支援が必要だと思う。(小学校、養護教諭・養護助教諭)

### 5 既存の業務の見直しや効率化

- (例)・大規模学校では、感染防止対策が取りづらいことが多い、子供たちは密接、密集し、校内の消毒などとてもできる状態ではない。また、様々な行事を、工夫して行おうとしたり、授業確保のため、夏休みを短縮したりと、教員は普段以上に多忙になっていると感じる。このつけは、教員よりも、子供に大きく跳ね返って来るのではないかと感じている。一斉休校は、批判されることも多かったが、あのくらいの思い切りも必要なのかもしれないと感じる。今、コロナで省いたことで、困らなかったことは、これからはやらない、そのように、効率化や省力化のチャンスとしたい。(中学校、教諭・助教諭)

### 6 既存の教育活動の精選・弾力化の検討

- (例)・これを機に、行事縮小、参加者選別が進み、なかなか進まなかった行事精選がしやすくなった(中学校、教諭・助教諭)
- ・部活動の大会の精選と夏季の大会中止(中学校、主幹教諭)

### 7 既存の教育活動の意義の再確認

- (例)・コロナの影響にかこつけて、学校行事等安易に中止しようとする風潮がある。(小学校、校長)
- ・コロナ禍という点で①オンライン授業が取りざたされているが、これはあくまでも暫定的なことであって、今後のスタンダードとならないように願っている。義務教育は対面で行うことが大切ではないだろうか。②三密という言葉が言われるが、学校現場は対応できていない。看過されているような気もする。「大丈夫だろう」で進められていないか。対策・支援をいただくというこの点か。(小学校、教諭・助教諭)

## 6-4.その他

### 1 学校の存在意義の再確認

- (例)・学校が社会システムに貢献していることを改めて認識した。学級の人数を減らす必要性を痛感した。子供も保護者も突然のことへの対応力が低下しているので学校も変わる必要がある。(小学校、教頭)

### 2 教員免許状更新講習への対応

- (例)・教員免許状更新が、webになったものが多いが、pcが古いので、マイク、カメラもついていないので、zoomが不可能な状態。そのような人は、別の講習と言われても、普段の業務の合間に、講習の状況を確認して、さらに別の講習へ振り返ろというのは、不親切だと感じる。もっと現場に寄り添って、講習のことを考えていただきたい。(小学校、教諭・助教諭)

### 4 文部科学省による通知内容・コロナ対応への不満

- (例)・市町単位での画一的な臨時休業は不要だと感じた。(小学校、教諭・助教諭)
- ・緊急事態にも関わらず、通常時と変わらない教育課程の履修や提出文書の提出を求める文科省や県教委・市教委の対応に疑問を感じる。同様のことは、これまでも様々なところから(新聞、ネット)聞こえるが、何も変わらない。(小学校、教諭・助教諭)
- ・文科省は、授業時数の確保にこだわるのではなく、内容の精選をしてほしい。(小学校、教諭・助教諭)

### 5 教育実習の受け入れ

- (例)・教育実習にしても何にしても、受け入れるしかない学校や教員は、立場が弱いと感じます。自分が感染の危険に晒されても、防ぎようがありません。また、行事が中止、縮小されることについては、知恵を出し合って乗り切るしかないと思います。(中学校、教諭・助教諭)